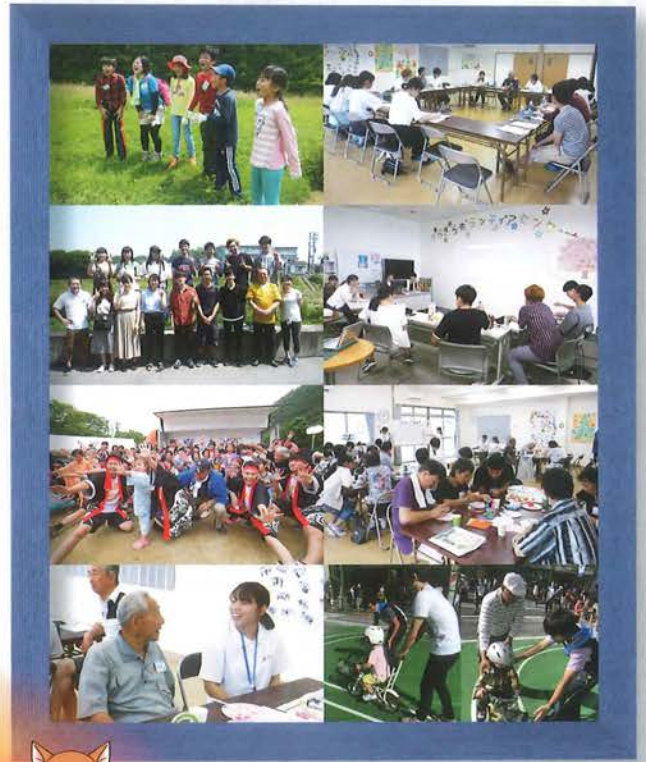


2019
春の活動



2019
夏の活動

つながる仲間
広がる世界



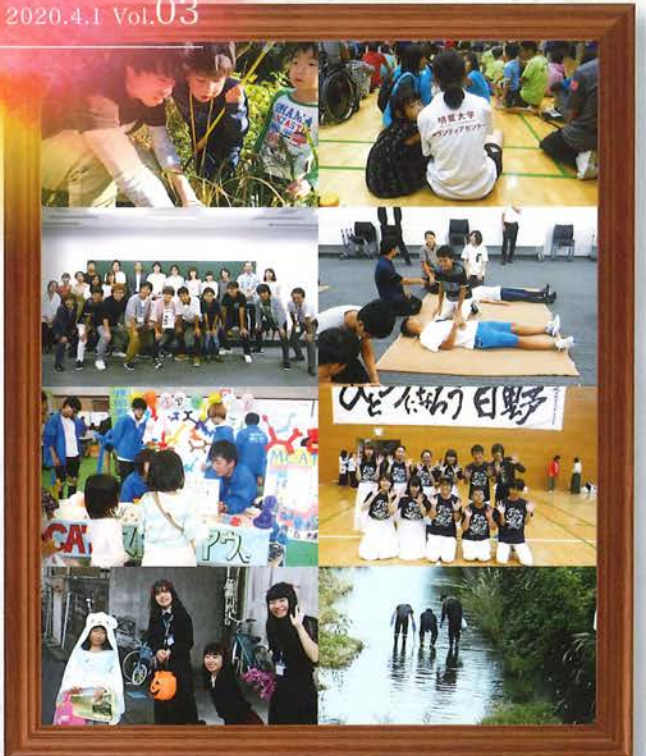
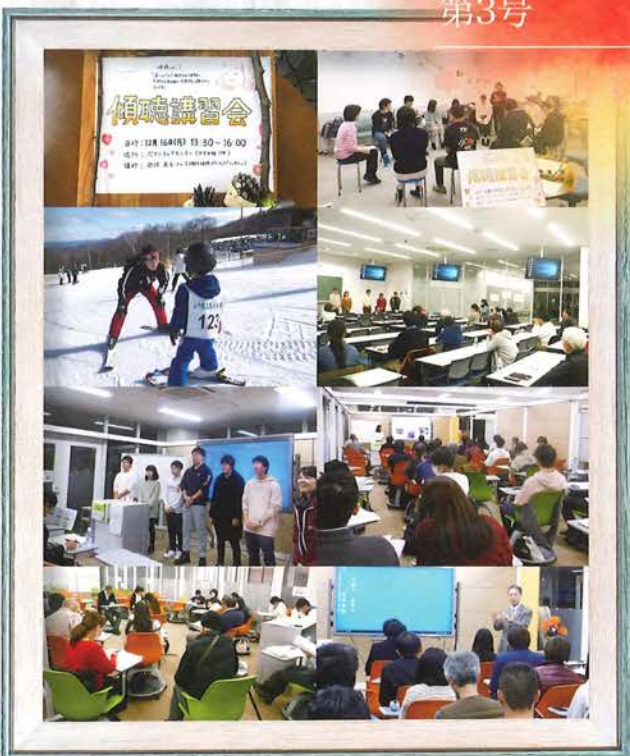
ボランティアセンター
Newsletter

2019
冬の活動

2019
秋の活動

第3号

2020.4.1 Vol.03



ひとりの思いが繋がって 仲間と活動 (個人ボランティア)

坂口朱音 (さかぐち あかね) さん

人文学部人間社会学科4年



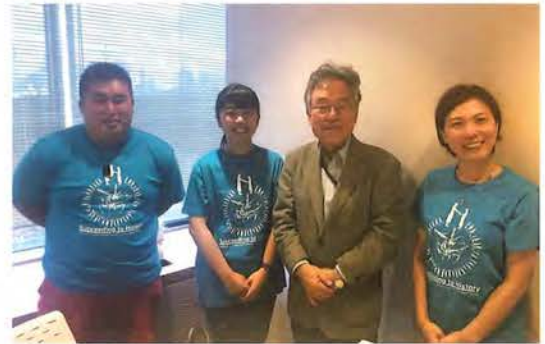
大学に入学してボランティアに興味を持ちました。ところが、なかなか実行に移せないまま大学3年になっていた自分がいました。そんな私に一つの転機が訪れました。大学2年の夏、『第三世代が考えるヒロシマ「継ぐ展」』の来場者側だった私は、企画側に回らないかと声をかけていただいたのがきっかけで、3年の夏に再び参加させてもらいました。既存の展示のものに加え、自分たちが小学生と自由研究を一緒にすることを通して、ヒロシマの出来事を伝承したり、学生が自分の思いを発信するシンポジウム等に参加したりと、新たなことにも挑戦させてもらいました。また、当日のイベントを迎えるにあたって、大学のボランティアセンターで助成金を貰えるチャンスがある『ぼらチャレンジ』に参加し、またNHKのラジオで告知をさせてもらう機会がありました。この2つによって、自分がなぜボランティアをするのかということに向き合う機会ともなり、ただボランティアをするのではなく、自分自身で考えて行動することができました。そして、ラジオで私たちのことを聞いて、遠方から来てくださる方や、1回だけではなく何回も展示に足を運んでくださった方もいました。幅広い年齢層の方と関わり、1人1人と話をさせてもらい、自分自身が刺激をもらう日々となりました。

企画を終えて振り返った時に、机上でしか学んでいなかったことを、誰かに伝えることの難しさを感じました。話していく中で子どもの質問に考えさせられたり、こうすれば伝わりやすいかな…など模索の繰り返しでした。苦しいことも多々ありましたが、この模索が自分を成長させてくれました。私だけでなく、展示会にかかわった人たちみんなが成長できるものになったと思います。

ボランティアとは、だれもが“できる”ものですし、いつから始めても遅くないものです。以前の私のように、してみたいけれど、行動に移せていない人もぜひ、今から足を運んでほしいなと思います。自分にできること、学生だからこそできること、そして、今自分が持っているものを生かすことができるボランティアがきっとあります。これからも、自分にできるボランティアを行い、様々な人とつながることができたらと思います。



『ヒロシマ「継ぐ展」』での自由研究サポート教室



NHKラジオ「三宅民夫のマイあさ!」に出演

橋谷優希 (はしや ゆうき) さん

人文学部福祉実践学科2年



僕がボランティアに出会ったのは、この明星大学に入ってからです。

今までボランティア活動というものに興味はあったけれど一歩踏み出せずにいた僕は、この大学にあるボランティアセンターへ行くことにしました。そこで紹介された地域の方々との交流の場である「アムール」というところへ訪問してみました。

そこは一軒の家に人々が集まって談笑をする場だったため、正直知らない人と世間話をするのが苦手だった僕は、「お手伝い」という口実を使い、外にある庭に逃げ出し、草むしりを始めてしまいました。けれど、スタッフの方も一緒に外に出て草むしりをしながら話しかけてくださったことでようやく打ち解け、最後のほうは室内でお話もできるようになりました。その帰り道は、逆に元気をもらって帰っていたことを今でもよく覚えています。

それから一年間、主にアムールのお庭を使わせていただいて色々な活動をしてきました。

学外を歩いているときも顔見知りの人が増え、自分も明星地区の一員として関わっているのかな、と嬉しく思うことがあり、これからもその繋がりを大切に活動していきたいです。

あの日、勇気を出してボランティアセンターへ行ったことで、僕の人生は物凄く変わりました。ボランティアというものを通して出会えた人の数は、これまで築いてきた交友関係の何倍にもなり、それだけ色々な経験を積むことができたんだと考えています。

一番大きかったことは、「何の能力もない自分でもやれることが沢山あるんだ」と気付き、自信を持つことができるようになったことです。

もし、ボランティアに興味があるけれどどうしたらいいのかわからなかったり、不安があったりする方がいるのなら、ボランティアセンターのスタッフさんに相談してみてください。

また、もしも「単調な学生生活を送りたくない」、「なにか刺激をもらいたい」などと感じている人がいるならば、新しいことに挑戦するための方法として、何かしらのボランティア活動へ参加してみることを個人的に強くお勧めしたいです。



アムールで地域の方々と共に



アムールの庭の花壇づくり

仲間と共に 思いをつなげる活動 (団体ボランティア)

へき地教育研究部 創立1969年 部員数41名

へき地教育研究部は山や島にある小規模の小・中学校に1週間訪問し、子どもたちとの交流やボランティア活動、またへき地教育の特徴等についての研究を行っています。毎年9月と2月の長期休業を利用して学校を訪問し、11月の学園祭では、へき地校での調査報告や研究発表をしています。「学校訪問」という活動の特性から、将来教員を目指す者が多く在籍していますが、なかには教職を履修していない学生もあり、多種多様な視点から研究が行われています。

へき地校だけでなく、大学周辺の地域でも様々な活動を行っています。昨年は日野市主催のまちづくり市民フェアでスノードーム作り体験のブースを企画し、地域の子どもたちと交流をしました。また、昨年度3月には、地方からの小学生の大学訪問で、キャンパスツアーを企画しました。様々な活動の成果もあり、昨年度は一般財団法人サポートセンターが全国の学生ボランティア団体を対象に実施している「学生ボランティア団体助成事業」に採択されました。

実際の学校現場で先生方や子どもたちの様子を観ることは、大学の授業では知り得ない学びにつながります。ボランティアを通して自分自身が成長することも目的のひとつとして日々活動しています。



山梨県早川町立早川北小学校でのレクリエーション



スノードーム作り体験

虹色の薔薇の会 創立2014年 部員数7名

虹色の薔薇の会は、2011年の震災後から、元々は心理学科のゼミの活動として、当時のゼミの先生が学生時代にご縁があった岩手県の田野畑村を訪れ、住民の方々のお宅を1軒1軒回っての傾聴活動や公民館をお借りしてのイベントを行っていました。

初めて田野畑村を訪問した際は、ただ1軒ずつ回って傾聴しようとしても、震災直後でもあり、しかも初対面である私たちは中々受け入れてもらえないのではないかと心配がありました。そこでゼミの先生が最初のきっかけとしてお花をお配りしようと提案され、せっかくなら薔薇の花が素敵でいいよねということで、薔薇の花を田野畑村の方々にお配りすることになりました。それが、「虹色の薔薇の会」の名前の由来です。

その後、2014年に正式に虹色の薔薇の会として愛好会に認定され、心理学部のみならず、様々な学部の学生が所属するようになりました。

現在の虹色の薔薇の会は、毎年8月に田野畑村で公民館をお借りし、アロマキャンドルづくりや、心の健康をテーマとした劇など、私たち学生が企画したイベントを行っています。また、毎年お配りしている薔薇の花を大切に育ててくださっていたり、近年は、村の夏祭りに呼んでいただけるようになったりと、年々田野畑村とのつながりは深くなっていると思います。

この活動では、人とのつながりを強く感じます。これからもこのつながりを大切にして、虹色の薔薇の会のみんなと活動していき、その活動の幅を広げていきたいと思っています。



アロマキャンドルづくり



手作り紙芝居の上演



毎年楽しみな
バラの花!



お気に入りの
アロマ!

学生たちの活躍がさまざまなところから評価されています!

- 「MCAT」: 関東管区警察局長、関東防犯協会連絡協議会から特別功労賞を受賞
- 「へき地教育研究部」: 一般財団法人 学生サポートセンター「学生ボランティア団体助成事業」に採択
- 「星友会」「第三世代が考えるヒロシマ」] 継ぐ展」: NHKラジオ「三宅民夫のマイあさ!」に出演、武相新聞に掲載
- 「どろんこの会」: 地域で輝く若者たちkokoiko/府中市市民活動センターに掲載
- 「多摩地域4大学合同学生ボランティア活動報告会」: 被災地で活動する学生の今を伝える、活動の始まりと終わり(10月5日開催) 教育学術新聞、福島民友に掲載
- 「ぼらチャレンジ 活動報告会」: (1月14日開催) ボランティア・インフォメーション/日野市ボランティア・センターに掲載
- 「明星大学ボランティアセンター」: ネットワーク/東京ボランティア・市民活動センターに掲載

想いをかたちに

「第6回ぼらチャレンジ」を開催

「明星大学学生が近隣地域と連携して取り組む地域貢献活動」をテーマに、活動プロジェクトのアイデアを募って審査し、活動費を助成する「ぼらチャレンジ」が6月に開催されました。

2019年度は12団体が採択され、2020年1月に、それぞれの団体が成果を伝える報告会が開催されました。学生たちからは、「助成を受け、団体の活動の幅が広がった」、「地域の方々との交流が深まった」などの声が多く聞かれました。今後の課題としては、どの団体も、「この活動をどう継続していくか?」という点が共通していました。



「ぼらチャレンジ」採択団体

- ☆「JONA's」:相模原市での子どもの居場所づくり
- ☆「レインボーサイン」:子ども支援、夏休み宿題片づけ隊
- ☆「Sun Flower」:明星地区つながりの家アムールのお庭づくり・イベント企画
- ☆「星友会」:広島・長崎の被爆体験や思いを第三世代に伝える
- ☆「虹色の薔薇の会」:岩手県田野畑村での災害復興・地域支援活動、アロマキャンドルづくり
- ☆「憩い処明星」:高幡台団地での高齢者ふれあいサロン
- ☆「へき地教育研究部」:スノードームづくりで子どもたちとつながる
- ☆「Freedom music」:熊本へ音楽で元気を届ける
- ☆「月見煙草」:音楽や食を通じて学生と地域の方がつながる
- ☆「SEASON」:クライミングチャレンジ(子ども達と登山)子どもたちのやりたい!を応援する
- ☆「僕らの夏休みProject 実行委員会明星大学支部」:岩手県の子どもたちを笑顔にする交流活動
- ☆「減災プロジェクトFine」:被災地訪問スタディーツアー

ボランティア活動報告会

2019年度は、ボランティア活動報告会を3回開催いたしました。各回のテーマは、以下の通りです。

- 第1回(2019年10月5日) :被災地で活動する学生の今を伝える
多摩地域4大学合同学生ボランティア活動報告会
- 第2回(2019年11月26日) :学生ボランティア活動と社会問題の関係性について考える
- 第3回(2020年1月24日) :卒業する学生のボランティア活動を振り返って
大学生活でのボランティア活動とその意義について語り、考える



きらボちゃん



ボランティアセンター Newsletter

第3号 2020.4.1 Vol.03

編集後記

ボランティアセンターの第3号ニュースレターをお届けします。明星大学の学生たちは、「個人ボランティア」や「団体ボランティア」といった形で、日々さまざまなボランティア活動に取り組んでいます。地域の方々や、支援を必要としている方々と「つながる」学生たちをとても誇りに思っております。(浅井正行:ボランティアセンター センター長・福祉実践学科 教授)